

今、韓国ドラマは時代劇天下

ソウル駐在員事務所

秘書 洪承元

時代劇と言えば、お年寄りの専有物で男性中心、退屈？ いいえ、今は全く違います。

ご存知の方も多いと思われる、大長今（チャングムの誓い）を始めとして、女人天下、海神（ヘシン）、許浚（ホ・ジュン）、茶母（チュオクの剣）、朱蒙（チュモン）、黄眞伊（ファン・ジニ）等、2000年以降大ヒットした時代劇ドラマだけを数えても十本の指では足りないぐらいです。老若男女の区別なしで視聴者の層も幅広くなっています。

民間放送局の一つ文化放送（MBC）は、9月から月曜日～木曜日の間、午後10時からの時間帯が、まさに時代劇の天下となっています。MBCだけでなく、今秋現在放送中や放送予定の時代劇は史上最大の8編もあります。

その中でも話題は、放送が延期に次ぐ延期でファンをやきもきさせた、ヨン様ことペ・ヨンジュンを起用し、ドラマとしては破格の制作費430億ウォン（50億円以上）が投入された「太王四神記（テワンサシンギ）」です。韓国では通常、連続ドラマは毎週2夜連続で放映されます。「太王四神記」は水曜木曜のドラマですが、本番スタート前の月曜日の特番から連続三日間で3話まで放送させて、その翌週の水曜日に4話から本格的に放送されました。ちなみに初回視聴率は20%で、最高視聴率50%超の国民ドラマであった朱蒙の初回記録を越える高視聴率。放映2回で30%に肉薄する視聴率で大きな期待を集めています。

視聴者が時代劇に熱狂する理由は色々ありますが、昔の少し硬いイメージの時代劇から、ファンタジー的な要素を取り入れコンピューターグラフィックによる見所を作ったり、男性中心のストーリーを女性中心にする傾向なども挙げられるでしょう。

今年の上半期までは將軍たちのアクション中心でしたが、下半期に入ってから宮殿を中心とした権力闘争に変わりました。特に朝鮮時代の政治体制は政争を通じ権力を争ったため、現実政治を例え表現するのもっとも良い素材です。これは取扱っている時代は違いますが、過去の大統領選挙の時も同じく王様の話が話題になっていました。今年の下半期の時代劇を見てみると、朝鮮時代、その中でも第22代正祖（1776～1800）の時代劇が続いています。正祖は改革君主としてのイメージが強いからです。12月19日に迫った大統領選挙を控えている候補者たちの目も引くことでしょう。



（写真）時代劇で競争する韓国のTV放送局